



アイヌ文化のことをもっともっと話したい！
本田優子と村木美幸の二人が、その魅力を交代で
執筆するソンコ(=お便り)形式のエッセイです。

チピヤク(オオジシギ)

村木美幸(アイヌ民族文化財団副理事長)

春

先、繁殖のために渡ってくるオオジシギは細長い嘴が特徴的です。繁殖期に雄がおこなう求愛のディスプレイフライトで、尾羽を広げて急降下する際の「ゴゴゴゴ…」というジェット機の轟音？のよう大きな羽音から別名「雷鵜」とも呼ばれます。

オオジシギのアイヌ語名チピヤクは、鳴き声に由来するといわれています。エカシ(おじいさん)やフツチ(おばあさん)にオオジシギの鳴き声を聞くと、チピヤク チピヤクやピーヤク ピヤク ピヤクと鳴くとのこと。

オオジシギのディスプレイフライトをチピヤク スフヌ(急降下)と呼び、春先にこのチピヤク スフヌを何度も目にした年は豊作になるといいます。また、チピヤクはシサム(和人)が交易にやってくるのを知らせる鳥なので、チピヤクが鳴いたら直ぐに準備すれば裕福になれる、という話も伝えられています。

白糠出身の四宅ヤエフツチが語った物語の二つに「ハン

チピーヤク チピーヤク」というサケヘ(折り返し言葉)で語られるオイナ(神謡)があります。そのサケヘからオ

オジシギの神が主人公であることがわかります。内容は、私(オオジシギの神)が天界の神々から人間世界



イラスト/山丸ケニ

様子を見てくるよう命じられ、下界へと向かったが、人間世界の美しさや楽しさに耽けて使命を忘れていたうちに年が過ぎてしまいます。使命を思い出して慌てて天界に戻るも、私は天界の神々から責め立てられ、体罰を受け、瀕死の状態で追い出されます。傷が治り、天界に戻ろうと何度も飛んでいくのですが、神々の怒りや仕打ちを思うと戻ることができず、また人間世界に舞い戻る…と、自らの運命を語ったというもの。オオジシギの神が怠け者として語られるこのオイナをヤエフツチは好んで語ったといえます。怠けることが大嫌いで、人に迷惑をかけず、約束を守り、精一杯努力してきたというヤエフツチ、自身の戒めとして、また、人々への教訓として怠けるものの顛末が悲惨であることを伝えるお話だということですね。

うことですね。

私たちが尊いとするカムイ(神々)でさえも、このオオジシギのお話のように怠けたり、悪いことをすると哀れな末路を辿るといふもの。物語の中で語られる道徳観や倫理観は現代の私たちの社会においても大切なことと思います。皆さんもアイヌの口承文芸の世界に触れてみませんか？



誌面での連載は今号で最終回となります。長い間ご愛読いただき
イヤイケケ(ありがとうございました)。



ウポポイ

NATIONAL AINU MUSEUM and PARK
民族共生象徴空間

JR白老駅から徒歩約10分



ウポポイPRキャラクター
「トラレッポン」



イランカラテ
「こんにちば」からはじめよう。

■本田優子(ぼんだゆうこ):金沢市生まれ。札幌大学教授。北大卒業後11年間平取町二風谷に住み、アイヌ語講師を務める。
■村木美幸(むらきみゆき):白老町生まれ。アイヌ民族文化財団副理事長。先住民族アイヌの一員として文化継承活動に努める。
■山丸ケニ(やままるけに):白老町生まれ。アイヌ民族文化財団職員。ウポポイでアイヌ語体験プログラムを担当する。